

講演

「理系女子」というラベル

明治大学農学部教授

浜本 牧子

○司会者 では、講演会に移りたいと思います。ご講演は「『理系女子』というラベル」と題しまして、明治大学農学部教授・浜本牧子先生からご講演をいただきます。浜本先生のご経歴等は次第冊子4ページにございます。それでは、浜本先生、お願いします。

○浜本 ご紹介ありがとうございます。皆さん、こんにちは。改めまして、明治大学農学部生命科学科の浜本牧子でございます。本日は、「『理系女子』というラベル」というタイトルでお話をさせていただきますが、なぜ、理系に進む女性は少ないのかとか、昨今世間を騒がせております医学部入試と女性受験生というような視点からではなく、本学の男女共同参画推進の取り組みを行う中で感じていること、また、私自身の経験の中で感じたことなどについてお話をしたいと思っております。本日は短い時間ではございますが、よろしく願いいたします。

では、ちょっと、スライドの操作がありますので、あちらへ移りたいと思います。

(スライド)

本日は、大きくはここに掲げました3つの項目についてお話をいたします。まず初めに、自己紹介を兼ねて現在行っている研究を少し紹介したいと思います。

まず、自己紹介、出生から現在までということなのですが、山梨県生まれ、そして高校2年生になるときの理系か文系かという選択の際に理系進学をしたいと思いますので、理系クラスを選択いたしました。大学・大学院時代には、微生物を扱って研究をしていたのですが、自分の生活時間を微生物のライフサイクルに合わせるというようなこともしながら、研究に明け暮れておりました。

理系というと、よく、3Kということを知ったことがあるかと思いますが、つまり、きつい、汚い、危険、最近はさらに、暗い、臭いというものが加わり、5Kといわれるようになっていくようです。確かに今申し上げましたように、生活時間は生き物を相手にしておりますので、微生物のライフサイクルに合わせる。そういう意味ではきつい。あとは、実験室で実験するときに、かかとの高い靴とか裾の長いスカート、あとは、アクセサリなどを身につけておられますと実験の妨げになる。実験中に汚れることもあるので、そういう意味ではおしゃれは余りできないという意味では、汚い、というのが当たっているのかどうかはわからないのですが、汚いと。あと、危険な試薬、やけどなどの可能性、私も何度もやけどをしましたが、それは自分の不注意でなのですが、そういう可能性もあるので、危険。実験というのは、分野にもよりますが、逆に人と会話していたら実験はできませんので、もくもくと実験を行うことが多いところでは暗い。それと、微生物を育てるのには、培地といういろいろな栄養分を含んだものをつくるのですが、それが臭いのです。

培地だけならともかく、そこに微生物を生育させ、実験が終わった段階でそれを高圧蒸気滅菌をして廃棄するのですが、そうすると微生物が育ったことによっていろいろな産物を出すので、さらに臭くなるということで、5Kがどんぴしゃ当てはまるかなというところではございます。でも、私もそうですが、当の本人たちは3Kとか5Kなんて思ったり考えたことは全くない、感じたりしていないというのが実情です。

(スライド)

では、研究はどうだったかという、世の中何でもそうですが、非常にうまくいって順調に進むときもあれば、何度同じことをやっても全く前に進まない、ただある日突然、なぜか急にうまくいくようになり、未知のことが明らかになるという楽しさを、学生時代たくさん経験しました。そんな経験が研究者への道に進むきっかけになったのではないかと後で思った次第です。

博士の学位をとった後、国内で博士研究員をしまして、その後、家族の仕事の関係で渡米し、1年目は子供も小さかったので子育てに専念しました。子育てをして家にいるのも非常に楽しかったのですが、そんな中でやはり研究を通じて社会とかかわりをもっていたいなという思いが強くなりまして、2年目は帰国後のことも考えまして、週4日間だけ大学の研究室で博士研究員として研究に復帰し、帰国後の就職活動も同時に始めました。ですが、当時何十年か前の話なので、メールはもちろんのこと、インターネットもやっとアメリカで商用のインターネットが始まったような時代でしたので、どうやって日本の求人情報を探したかという、大学の図書館に参りまして、そこには日本の学会の学会誌がございました。なので、それを一生懸命ページをめくり、職を探したというのが今は懐かしい思い出です。

当時、年齢制限は結構出ていましたが、男性に限るというような求人、男性に限るというのは明文化はされておりましたが、さすがに女性で、しかも理系の研究職となると、さらにパーマネントの職となると、かなりハードルが高いなという認識はもっておりましたが、幸運なことに理化学研究所の専任研究員のポストを得まして、帰国して理化学研究所で研究者としての第一歩を踏み出すことができました。理化学研究所時代は、酵母の多様性の研究をしておりまして、14年ほど理化学研究所で研究をしたのですが、その後ご縁がございまして、2004年から明治大学に奉職することになりまして、現在に至っております。

このような経歴ですので、先ほど申し上げましたように、高校2年生のときから現在に至るまで理系女子、途中からは女子ではなく、理系の女性研究者というほうが当たっているかと思いますが、私の記憶の中では、わざわざ理系女子と呼ばれた記憶はないのです。このことについては、後ほど改めて触れたいと思います。

(スライド)

それでは、現在行っている研究について少しだけ紹介したいと思います。「健康維持・増進に役立つ海からのおくりものを探し求めて」と、これは一般受けするようなタイトルをちょっとつけてみました。

まず、皆様ご存じのように、日本社会は世界でも類をみないほど超高齢化社会となっておりますし、今後もそれは続いていくと予想されております。このことはデータでも示されておりますが、まずこの図ですが、こちらは1950年から2017年までですね。それと、今後予想される高齢人口の割合を5年ごとに示したものですが、まず2017年、27.7%だったのが2040年には35.3%と、今後も高齢化は進んでいくということが予測されております。

(スライド)

次に、この図は、主要国の高齢者人口の割合の比較をした図でございます。日本は、主要国の中で高齢者人口の割合が断トツ高いということがこの図からも明らかであります。このように高齢化が非常に進んでいる日本社会におきまして、平均寿命と健康寿命ということが最近非常に注目されるようになっております。つまり、平均寿命と健康寿命の差を縮めることが個人のQOL、つまり生活の質の維持とか、社会保障の負担の軽減など、そういう観点から非常に重要であるということが社会全体として認識されていることはご存じのとおりかと思えます。

それでは、こういう社会的な背景を踏まえて、どういう研究をしているかということについてお話を進めていきたいと思えます。現在私は、海洋酵母に関する研究を行っておりますが、海洋酵母に出会ったのは、理化学研究所に在籍していたころでございます。横須賀にございます海洋開発研究機構、略してJAMSTEC、たまに、しんかい6500とか、潜水艦のことで話題になって、ニュースなどで報道されることがあるかと思えますが、その研究グループと共同で研究を行いました結果、海洋には赤色の酵母がたくさんいるということを明らかにいたしました。

これは2001年のころに発表した論文の図なのですが、この右側に写真がございますように、このように赤いといってもサーモンレッドのような赤から、ちょっと黄色みがかった——これも私たちの研究分野では赤とってしまうのですが、この赤色は何に由来するかというと、カロテノイドに由来します。

皆さん、カロテノイドというのはお聞きになったことがあると思えます。ニンジンとかトマト、カボチャなどにもたくさん含まれますが、カロテノイドというのは、抗酸化作用をもっていて、中には、がんの予防とか、老化の予防効果が期待されているものも知られています。ということで、カロテノイドは健康維持・増進に非常に有用な物質として知られている物質でございます。この研究のことをしばらく私の頭の中からは忘れておりました。

明治大学に2004年に赴任しまして、新たな研究テーマを考えていたときに、ふと赤色酵母と高齢化社会への貢献ということが結びつきました。さらに、所属学部が農学部であることから産業動物とか伴侶動物、いわゆるペットですね。伴侶動物というキーワードとも結びつきまして、人の生活の質向上のためだけでなく、産業動物の安定供給と伴侶動物の生活習慣病や高齢化に伴う疾病の予防、そして改善のために、これらの健康維持に資する新しい機能をもったカロテノイドを探索してみようということで研究を始めました。

その結果、当初は今まで知られていない全く新しい機能、新しい種類のカロテノイドの

発見を期待していたのですが、ちょっと残念なことに、全く新しい今まで知られていないようなカロテノイドはみつからなかったのです。しかし、ここに赤字で書きましたように、3種類の希少なカロテノイド、希少なというのは自然界ではほとんどみつかっていないカロテノイドを発見いたしました。

その後、この希少なカロテノイド、希少ということは研究されていないということなので、機能解析の研究を進めまして、現在もその研究を進めておりますが、有望な健康維持・増進に役立つような機能性のデータが出つつあります。あとは、抗酸化活性が高いということで、女性の方は非常にお肌のことが気になるかと思いますが、お肌にも何らかのいい作用をもつ可能性があるということ、あと赤い色というのは化粧品に混ぜますときれいなピンク色になりますので、そこもちょっと乙女心をくすぐるのかなというところで、化粧品素材への応用などということも視野に入れて研究を進めております。

以上、自己紹介を兼ねた研究の紹介をさせていただきましたが、ここからは、タイトルの「『理系女子』というラベル」ということでお話をしたいと思います。

まず始めに、理系女子という呼称について、呼び方についてですが、今さらおさらいでもございませんが、理系女子というのは、理系を目指している女子中高生とか理系で学んでいる女子大学生、大学院生、あとは理系の研究とか理系分野で仕事をしている女性を指す総称的な呼称だと思います。

では、この理系女子という呼び方、これが広まったきっかけ、皆さん、ご存じでしょうか。ご存じの方も中にはいらっしゃるかと思いますが、これは、茨城県立水戸第二高等学校の女子高生5人が発見した新たな化学現象に関する研究の論文——卒業した後、論文になっているのですが、こちらにそのときの学術雑誌に発表されたときの要旨が書いて示してあります。ここをみると、女子高生の5人の名前、あとはこれは多分ご指導された先生の名前だと思いますが、これがアメリカの権威ある物理化学の専門誌に掲載されたということが当時非常に話題になりました。これをきっかけに理系女子とか理系で学ぶ女子学生というものに注目が集まって、理系女子という呼称が広まったというようなことなのです。この論文、発表されたのが、ここに書いてありますが2011年なのです。なので、ことしてはまだ2018年なので、ほんの7年前くらいから理系女子という呼び方が世間に広まったとされております。

あと、多分これは皆さん記憶に新しいかと思いますが、理系女子、理系の女性を縮めたリケジョという言葉です。この言葉が、後ほどお話しいたしますが、2014年にS T A P細胞の発見の報道で使われたことも、理系女子という呼び方がさらに広まるきっかけになったのではないかと考えております。

それでは、理系女子の対義語は何でしょうかということですが、理系に注目すると文系女子、では女子ということに注目すると理系男子、理系と女子両方に注目すると文系男子ということになると思います。ですが、文系女子、理系男子、文系男子、これらはどうでしょうか。いずれも、理系女子のように社会から関心をもたれたりとか、メディアに取り上げられたりとか、そういうことはほとんどないといってもいいのではないのでしょうか。

では、どうして理系女子というのは関心をもたれるのでしょうか。理系女子というのは、当たり前かもしれませんが非常に少ない、珍しい、希少だから関心をもたれるということ。誤解を恐れずに申し上げるのならば、どこにでもいて珍しくもない、つまり普通だったら注目されたり関心をもたれたりすることは滅多にないということだと思います。

先ほどご紹介しました私の赤色海洋酵母が産生するカロテノイドにつきましても、今まで知られていないカロテノイドは発見できなかったのですが、自然界で非常に希少なカロテノイド、希少だから注目して研究を進めたということですので、ある意味、希少というキーワードで、カロテノイドと、この理系女子の希少さというのは通じるのではないのかなと思っております。

それでは、少ないといいますが、理系女子が実際どのくらい少ないのかというデータがございます。この図は、平成28年度、2016年度の大学生、大学院生の学生に占める女子学生の割合を専攻分野別に示したものでございます。赤が学部生、青が大学院生を指しております。この中で理系分野に分類されるのが、この赤の線で囲ってありますが、理学、工学、農学、医学、歯学、薬学、看護学などということになりますが、もう一目瞭然、理系と一口にいっていても、理学、そして工学の分野において、学部生、大学院生がともに女子学生の割合が極めて少ない、低いということがみてとれるかと思えます。

次に、この図ですが、こちらは専攻分野別にみた学部学生の分布を男子学生と女子学生に分けて、昭和60年度から平成26年度までの推移を示したものになります。左側が女子、右側が男子学生になります。上から昭和60年度、平成7年度といきまして、一番下が平成26年度となります。男子のほうは、左から人文、社会科学、そして理学、工学となっております。女子のほうは右側から人文、社会、理学、工学となっております。つまり、対称形となっております。

この中で、理系分野に分類されるのは、先ほどと同じなのですが、この赤い線で囲ったところになります。これをみていただくとわかるかと思えますが、驚くべきことに、30年たっても、専攻分野別にみた学生の分布というのは、ほとんど変わっていないといっているかと思えます。要は、今も昔も理系の女子学生が少ないということがみてとれます。

以上データを2つ示しましたが、理系で学ぶ女子学生、特に理工学、理学、工学の分野で学ぶ女子学生がいかに少ないのか、また四半世紀以上たっても、その状況というのは余り変わっていないということを改めて認識していただくことができたかと思えます。

それでは、次にこちらですが、理系の女性研究者はどうだろうかというデータがございます。この図は、専門分野別にみた大学等、要は一般企業は含まれていないのですが、研究本務者の男女別割合を示したものになります。専門分野別にかかわらず、ぱっとみて、女性の研究者そのものが少ないということがみてとれるかと思えますが、理系の女子学生の場合と同様に、理系の女性研究者、さらにその中でも理学と工学分野の女性研究者が著しく少ないということが明らかになっています。

それでは、次なのですが、理系に女子が少ない理由の1つとして、ちまたでよくいわれることが、女子は理数系の科目が苦手だからと。現場で、実際、中高生に教育をされてい

る先生方もそういうことを聞いたことがあるかもしれませんが、逆に実際にそういう言葉が学校の中でいわれているのかどうかというのをお聞きしたいところではございますが、ちまたではこういうことが時々いわれています。

この図は、理数分野における小学校4年生と中学2年生の学力を国別に示したものでございます。左側が数学、小学生の場合は算数、右側が理科になります。グラフは女子の得点から男子の得点を差し引いたもの、その値をこの棒グラフで示してございます。棒グラフ、赤く塗ってあるものは統計学的に有意差があるもの、青いものは非有意であるということを示しています。国によっていろいろですが、では日本はどうかといいますと、この赤枠で囲ったところが日本のデータになります。理科、数学ともに青、つまり男女の得点に有意差はないということはこのデータは示しています。つまり、女子は、理数系の科目が苦手とちまたでよくいわれているようなことは、理系に女子が少ないという理由には必ずしも当てはまらないということがこのデータで示されています。

それでは、先ほど、2011年ごろから、茨城県の女子高生がアメリカの物理化学のジャーナルに論文を発表したのがきっかけで、理系女子という呼び方が世間一般に非常に広まったというお話をさせていただきましたが、では、それ以前、理系で学ぶ女子学生、何と呼ばれていたのでしょうかということですか。

先ほど自己紹介のところでも少し触れましたように、私も何十年か前に理系を志す女子高生で、その後、大学、大学院と理系分野で学んだ学生だったのですが、私の記憶の中では、当時わざわざ理系女子と呼ばれた記憶はございませんので、恐らく社会でも、そういう生徒や学生のことをわざわざ理系女子と呼ぶことはなかったのではないかと考えております。

では、理系を目指す女子中高生や、実際に理系分野で学んでいる女子大学生、大学院生、さらには理系の研究者をわざわざ理系女子と呼ぶ、つまり理系女子というラベル、そういうラベルが貼られるようになったきっかけは何だったのか。

先ほどこれに関して少し触れましたように、2014年のSTAP細胞の発見の報道ということが関係しているのかなと思っております。その報道に関してですが、当時日本では、覚えている方もいらっしゃるかと思いますが、ほとんどの新聞やテレビでは、STAP細胞発見そのものに関する説明というのがかなり控えめであった。その本質的なことではなく、発表していた女性研究者の年齢とか性別とか服装、あとはラボの装飾など、STAP細胞の発見そのものとは関係のない理系女子、つまりそのころはリケジョという言葉がもう用いられておりましたが、研究者本人に関することがたくさん報道されていたということは皆様、記憶に新しいのではないかと思います。

一方、では欧米諸国などの海外の報道はどうだったかと申しますと、私、当時、海外の報道を直接自分で読んだわけではございませんが、年齢、性別、そういう日本でメインに報道されていたような内容の報道はございませんで、発見そのものの説明とか、医学などにどのように貢献するのか、あとは倫理問題に触れたような記事もあったと聞いております。

つまり、日本での報道のように、年齢、性別、ましてや服装とかラボの装飾などに関しては一切触れられていなかったそうです。では、日本ではどうしてこのように理系女子に注目した報道がされたのか、または報道になってしまったのかなど、ここではその報道の是非について、本日私の考えをお話するつもりはございませんが、当時、その報道をみて違和感を覚えたということ、それとリケジョという言葉、これに対して好きになれない言葉だなと。理系で学ぶ研究者として、リケジョという言葉に対してはちょっと好きになれないなと思ったということだけお伝えしておきたいと思います。

では、話を戻しますが、2014年の報道がきっかけの1つになってリケジョ——私はリケジョという言葉は好きではないので、あえて理系女子という言葉を使いますが、理系女子というラベルが、理系の主に女子学生に対して貼られるようになったと感じております。一方、それまで以上に理系分野で理系を志す女子中高学生とか、理系分野で学んでいる女子大学生、大学院生、そういう人たちに対する社会の関心が高まり、それとともに女子中高生自身も理系に進学することを意識する機会がふえたのではないかとも思っております。

さらに、理系が好きな女子の理系への進路選択というものも後押しするきっかけにもなったのではないのかと思っております。いいかえれば、理系女子というラベルが貼られたことが、女子は文系といった日本社会に浸透しているジェンダー・ステレオタイプ、こういうものを払拭するきっかけになった、なりつつあるのではないか。つまり、理系女子というラベルがプラスに作用している側面もあるのではないかと私、個人的には考えております。

そこで、これを好機として捉えまして、教育現場では、今取り組んでいかなければいけないのは、理系が好きな女子中高生に対して、理系への進路選択を後押しすることではないか。これは私の個人的な考えですが、私個人的にはそのように思っております。つまり、自分自身は理系に進みたいのだけれども、いろいろな外的な要因によってそれを諦めることのないように社会が支援してあげることが大切ではないかと思っております。もちろん、これは女子に限ったことではなく、男女を問わず、進路選択は、環境が許す限り本人の希望に沿ったものとなることが望ましいことはいうまでもないことであります。

先ほど理系の女性研究者が、理系女子に比べさらに少ないというデータをお示しましたが、理系に進学する女子中高生がふえていけば、理系の女子学生、大学院生がふえ、将来的には理系の女性研究者も、アフーマティブ・アクションのような取り組みを行わなくても自然にふえていくのではないかと思っております。

では、本日の最後のお話として、明治大学が取り組んでおります女子中高生の理系進路選択の支援に関する取り組みを、今、お話しさせていただいた話と関連して、紹介したいと思います。

まず、明治大学では2016年に「男女共同参画推進基本計画」というものを策定いたしました。ここに掲げたものが基本理念の抜粋で、その下に7つの基本方針を立てております。その4番目、赤字で表示いたしましたが、次世代の女性研究者育成を掲げて、女性研究者の裾野の拡大を図る取り組みを行っております。もちろん、この女性研究者というのは理

系の女性研究者に限ったものではございませんが、特に理系の女性研究者が少ないということで、現時点では理系というところに焦点を当てた取り組みを中心に行っております。

具体的な取り組みの1つとして、附属校、あとはオープンキャンパスにおきまして「女子大生による理系進路フォーラム」というイベントを開催しております。このイベントは、理系の女子大学院生や学部の学生さんが、理系の大学生活とか研究生活についてプレゼンをしたり、ガールズトークと称して、相談会形式で女子大生が中高生からの質問や相談に答えたりするというイベントでございます。

昨年度、第1回目のイベントを生田のオープンキャンパスで行いました。大学として初めての試みでしたので、どのぐらい人が来てくれるのかな、全く人が来てくれなかったらどうしようかとかなり心配しておりましたが、何と当日になりましたら、この会場はオープンキャンパスの中で最もにぎわっているのではないかと、といわれるぐらいに、2日間で300名近い来場者がございまして、大変盛況でございました。やはり、企画した私たちも、正直なところ、驚くとともに、女子中高生に対して、このように理系に関する情報を発信していくということの重要性を実感したというところでございます。

こちら右側が、上が生田のオープンキャンパス、そのときは生田で、理工と農学部のキャンパスですので、簡単な実験をちょっと体験してもらおうというコーナーを設置しました。この下の図ですが、ちょっと欠けていますが、こちらはことし中野キャンパスで行ったフォーラムで、ガールズトークコーナーの様子です。この左側がこのときの配布したパンフレットになっております。

このスライドですが、こちらは附属校で実施させていただいたときのチラシと写真になっております。この中にも附属校の先生方もいらっしゃるということで、その節は大変お世話になりました。

この右側が事前の告知をするチラシで、左側が明高中で開催させていただいたときのOGによるプレゼンテーション、下がガールズトークのときの写真でございます。このイベントを開催しまして、来場者にアンケートをしているのですが、そのアンケート調査の結果から、参加目的として、理系女子の勉強以外のキャンパスライフを知りたいというものが一番多かったです。次いで、学部、学科選びの参考にしたかったということが2番目、それとほぼ同数で、理系の学科で何が学べるか、どのような能力を身につけられるか知りたいという回答が多かったです。ということで、理系進路選択の理解を深めてもらうという私たちの企画したこのフォーラムが、その目的を達成できていると判断しております。

また、驚くべきことに、このフォーラムに参加することによって、理系女子に対するイメージがよいほうに変わったと回答した人が、何と94%にも達したというところは非常に驚きました。選択肢としては、よいほうに変わった、変わらない、悪いほうに変わった、どちらでもないという選択肢を設けたのですが、よいほうに変わったというのを94%の方が回答してくださいました。

ということで、これは附属校で開催したときなのですが、現場の先生からも、女子生徒さんたちが、理系進路選択について、先ほど申し上げましたように勉強以外のキャンパス

ライフ、理系ってどうなのだろう、女子が行ってどうなのだろうということを知りたがっているので、こういうフォーラムをぜひ継続していただきたいというようなお声も頂戴しております。

あと、こちらはフォーラム等だけではなく、いろいろなところで配布するよというこことで、理系3学部、理工学部、農学部、総合数理学部、3学部の理系のキャンパスライフを紹介するようなパンフレットもつくっております。

今ご紹介しましたように、昨年から取り組んでおります理系進路フォーラムを通して、やりたいことをやれる環境を子どもたちに平等に与えるということの重要性について、改めて考えさせられているところでございます。

ここまでの話をまとめをさせていただきますが、理系女子というラベルには限らないかと思うのですが、社会に一旦浸透してしまった何らかのステレオタイプとか、バイアスというものを払拭するということが、そう容易なことではないと思います。ですが、理系女子を特別なものとして扱う時代が終わって、興味をもった進路を自然に選択して、その先の結果として男女の別なく理系分野の職に就ける時代が来てきてほしい、そういう時代が来ることを願っております。

最後になりますが、先ほども少し触れましたし、最初に学長から、多様性ということの後で浜本が触れるに違いないというお言葉も頂戴いたしましたが、共創社会の実現という観点から考えますと、男女というだけではなく、そういう視点に加えて、障がい、国籍、人種、あとは、性的指向、性自認など、多様な背景をもつ子どもたちに、個々の能力を存分に発揮できるよう、平等に学ぶ機会を提供することが必要であるということはいまでもないことかと思えます。まず、こういうことを教育現場で加速して進めていくことが喫緊の課題であるということ、私、この2年半、土屋学長のもとで「男女共同参画・障がい者少数者支援担当」の副学長を務める中で実感しております。

この度、明治大学では、多様な価値観を受容し、共に学び共創する大学を目指して、「ダイバーシティ&インクルージョン宣言」を公表することとなりました。これによって、ダイバーシティ&インクルージョンの実現に向けた取り組み体制を整備し、ダイバーシティ&インクルージョンをますます加速させていくということでございます。11月23日、今度の金曜日、勤労感謝の祝日になりますが、この駿河台キャンパスで、明治大学アカデミックフェスというのを開催いたします。これは、昨年から開催しているのですが、この明治大学アカデミックフェスの中の「明治大学のダイバーシティ&インクルージョンを考える」というセッションにおきまして、土屋学長みずからが学長宣言として、「ダイバーシティ&インクルージョン宣言」を公表いたします。このセッションでは、明治大学の3名の教員にご登壇いただきまして、さまざまな切り口から、ダイバーシティ&インクルージョンについて語り、討論をしていただきます。

現役の先生方はもちろんですが、将来、教育現場、または教育関連の仕事を視野に入れている学生の皆さんから見ると、母校である明治大学の宣言や方針というのは、ある日突然、ホームページに載っているということがほとんどかと思えますが、今回の場合、学長

みずからこの宣言を公表しますので、ある意味、明治大学の歴史的瞬間、ちょっと大げさですが、そういうような場に立ち会っていただきたく、ご来場を心よりお待ちしております。

きょう、このチラシは配布しませんが、場所と時間は、授業の中でスクリーンの写メを撮ってはいけませんと学生さんたちはいわれていると思いますが、これは撮って構いませんので（笑声）、写メを撮って忘れないように、11月23日にアカデミックフェスにぜひいらしてください。検索する場合は、「明治大学 アカデミックフェス2018 学長宣言」としますと出てきますので、ぜひご来場ください。

雑駁な話をいろいろといたしましたが、私の講演は以上にさせていただきます。ご清聴ありがとうございました（拍手）。

○司会者 浜本先生、ありがとうございました。いま一度、大きな拍手をお願いいたします。

（満場拍手）